

進捗報告書（資金分配団体）

事業名:	生活困窮世帯への食料支援強化事業
資金分配団体:	一般社団法人全国フードバンク推進協議会
実行団体数:	7団体
実施時期:	2021年4月～2022年3月
事業対象地域:	全国
事業対象者:	失業者、大学生、ひとり親世帯等の生活困窮世帯

Version 1.0

日付: '2021年11月29日

I. 事業概要

事業概要
新型コロナウイルス感染症の影響により全国的に急増する生活困窮世帯に対して、フードバンク団体が行政や社会福祉協議会、子ども食堂などと連携して実施する食料支援活動の地理的、数量的拡大を目的に、フードバンク団体の人員体制や食品取扱量増加のための倉庫スペースの拡充等、インフラを強化するための助成を行う

II. 進捗報告の概要

総括
実行団体は6月から事業をスタートし、事業のKPIとなっている支援件数については、事業期間における目標件数を大幅に超過した団体を含め6団体が順調に支援件数を伸ばしている。実行団体のうち、外国人への食料支援を事業目的とする新潟県フードバンク連絡協議会だけが目標に対して支援件数が伸びていなかったが、伴走支援により、現状の課題の抽出や解決策について助言を行った。その結果9月、10月は支援件数は順調に伸びている。

III. 活動実績

資金支援

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
1実行団体あたり、 ・5つの福祉機関・団体との連携関係構築 ・延べ食料支援実施世帯数、1200世帯 ・約12トンの食品を困窮世帯に提供	実行団体は概ね順調に助成事業が進行している。遅延している団体においても、状況は改善しており、今後は順調に展開していくと思われるが、事業終了まで3ヵ月しか残っていないため、弊会も適切な伴走支援を行っていく。

実行団体名	進捗状況	概要
NPO法人セカンドハーベスト京都	計画通り	食料支援件数は3,115件と当初目標（1,900件）の164%を達成している。 支援重量は37.4トンとなっている。 行政機関等との連携としては、パントリーを直営でスポット的に行う社会福祉協議会との連携が拡大している。 新型コロナ禍で子ども食堂の開催が難しかったためパントリーに切り替える団体や新たにパントリー活動を始める団体もあり、支援件数はすでに目標数を超過しており、福祉機関との連携も順調に増えている。寄贈提供企業数も伸びている。規格外野菜の提供に関しては周囲への更なる認知が必要。助成事業を受け、スタッフの増員や事務所の移転など、組織基盤も順調に強化することができている。
NPO法人フードバンクイコロさっぽろ	計画通り	食料支援件数は1,065件で当初目標（1,353件）の79%を達成している 支援重量は7トンとなっている。 道内の複数の社会福祉協議会との連携が新たに始まるなど、行政機関等との連携も拡大している。 支援件数の伸びも、行政、社協や福祉との連携の拡大も順調に拡大している。新型コロナ禍における観光業の不振により食料支援に対するニーズが増加しており、行政との連携はより拡大している。北海道という土地柄から、支援範囲が広範囲に及ぶため、遠隔地に団体窓口を作りそこへ送った食料の窓口配布や、個人宅へ直送による食料支援も行っている。
認定NPO法人フードバンク北九州ライフアゲイン	ほぼ計画通り	食料支援件数は、2,210件で、当初目標（3,600件）の61%を達成している。 支援重量は24.3トンとなっている。 本助成事業により、北九州市との連携が新まるなど、公的機関との連携も拡大している。 支援件数の伸びも、企業との連携の拡大も順調に行われている。食品配布の効率化についても、配布先にアンケートを行ってニーズ調査を行う等進展している。市行政との連携が一気に加速し、今後の事業拡大を可能にする体制について準備する必要がある。事例として、10000世帯の児童扶養手当受給者へチラシを配布し、12月には抽選になるが、そのうちの1000世帯を支援する。会計科目の変更や科目間の流用などの変更を承認した。

NPO法人ふーどばんくOSAKA	計画通り	食料支援件数は、2,740件で、当初目標（1,200件）の228%となっている。 支援重量は11トンとなっている。 事業展開の多様化としてパントリー活動を多く展開し支援件数はすでに事業計画目標数を大幅に超えて実施している。大手も含めて多くのスーパーと連携し、食品配布のスペースをスーパー内に設置したり、フードドライブも実施している。連携機関数も順調に増えている。
NPO法人フードバンク愛知	ほぼ計画通り	食料支援件数は、1,585件で当初目標（3,500件）の45%を達成している 支援重量は10.5トンとなっている。 北名古屋市の連携がスタートしており、市役所内で食品配布を市職員も協力しながら実施することができている。 緊急事態宣言再稼働のため予定していた施設が使用できないことなどにより支援件数は計画より若干遅れている。しかしながら、行政との連携数は拡大しており、活動の周知も進んできたため今後は支援数も増える見込んでいる。
新潟県フードバンク連絡協議会	遅延あり	食料支援件数は、当初支援対象者への周知に時間がかかったため、344件で当初目標（2,700件）の13%と計画より遅れている。一方12月に入り外国人世帯への周知が急速に広まり、12月は500件程度の食料支援件数になる見込みである。 支援重量は6.9トンとなっている。 新潟県国際課や大学・専門学校等、外国人にかかわる各種組織と連携し、当該事業を説明し、被支援者への周知協力を要請した。その結果、大学等との連携も進み、4ヶ月目の10月以降急激に申込者が増加し、11月は200件、12月には500件の食料支援を実施できる様になった。今後も県内への周知の徹底を図り支援件数の増加に努めるよう指導している。
NPO法人フードバンクびわ湖	ほぼ計画通り	食料支援件数は、1,475件で当初目標（5,000件）の30%となっている。 支援重量は7.4トンとなっている。 個人商店等からの寄贈が多く集まり事業で配布している。10月末までの支出が少額であるが、現在新たな拠点の開設に向けて準備が進められており、冷蔵庫、冷凍庫の設置等、予算配分はそれ以降に変動が大きくなる予定である。

非資金的支援（資金分配団体の伴走支援活動）

活動	進捗状況	概要
実行団体が行政・福祉サービス・周囲のNPOと連携できるように、助言やネットワーク紹介、優良事例の共有等の伴走支援を行う。	遅延あり	1実行団体が行政や大学との連携ができておらず助成事業の進捗が停滞していたため、弊会からの伴走支援を強化した。JANPIAからの助言を受けて当該団体へ具体的な助言や視察を行い支援体制の強化を行っており、状況は改善している。また行政との連携関係構築に向けて連携協定の締結や政策提言に関するアドバイスを行っている。
全国フードバンク推進協議会として、大手食品企業からの食品寄付を募り、実行団体へ配達するなど、食品提供を行う	計画通り	企業から寄贈の提案があった食品をマッチングを行った上で、直接企業から発送してもらっている。
実行団体の活動が円滑に進むように、実施計画への助言、活動に際しての課題解決、進捗状況の把握、食料配布の成果や活動報告の取りまとめ、事前・事後評価の実施を支援する。	ほぼ計画通り	助成事業採択後から事業開始までの間で、全実行団体の事業計画のブラッシュアップを行った。特に実行団体である、ふーどばんくOSAKAでは、比較的食品を集める取り組みに助成事業の重きを置いていたが、団体と相談しながら食品の配布活動についても追加で事業内容に含んでいただくなど、より効果的な事業成果が出るようサポートさせていただいた。 事業開始後は1実行団体が行政や大学との連携ができておらず助成事業の進捗が停滞していたため、弊会も伴走支援ではなかったため、JANPIAからの助言に基づき、事業が円滑に進むよう実行団体側にもアドバイスを行った。
休眠預金からの助成事業のため、内部統制の強化に関する伴走支援を行う。	ほぼ計画通り	事業開始時に「緊急支援助成 実行団体における規程の整備について」を元に実行団体の規程類整備状況を確認している。今後も整備状況を基に実行団体側に再度に不足する部分について整備を促していく

IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述	
<p>（事業実施後に目標とする状態）</p> <p>①助成を受けた実行団体が、行政・福祉機関・他団体と連携関係を構築し生活困窮世帯の早期の把握、早期の食料支援（年間1000世帯以上）の実施が可能な体制となる。</p> <p>②食料を複数回に渡って届けることで、継続的に貧困家庭をフォローし、見守りを行う。</p> <p>③行政・福祉機関・他団体と連携関係を構築することにより、困窮世帯に食料支援を行うだけでなく、様々な公的支援につなぐことができる状態。</p> <p>実行団体は1団体事業の進捗が遅れていたものの、その他の実行団体では順調に食料支援の件数が推移している。また本助成事業で行政や社会福祉協議会と、企業等との連携も広がっている。困窮世帯からの支援要請を早期に把握できる仕組みは整いつつある。今後は実行団体の活動の中で把握した困窮世帯を、行政に繋ぐ仕組みの拡大に向けて行政との連携を深めていく必要があると感じている。</p>	

V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	実行団体への助成に充当される費用	¥0	¥28,700,000	¥28,700,000	¥19,115,433	67%
	管理的経費	¥0	¥4,860,000	¥4,860,000	¥2,370,479	49%
プログラム・オフィサー関連経費		¥0	¥320,000	¥320,000	¥32,280	10%
合計		¥0	¥33,880,000	¥33,880,000	¥21,518,192	64%
補足説明		<p>実行団体への助成は事業期間中2回に分けて支払うので執行金額は1回目支払い済み金額のみ。2回目の支払いは12月に実施すべく対応中。各金額は10月末時点の金額であり、11月に実施した実行団体への視察に係る費用はまだ計上していない。</p>				

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
<p>実行団体のうち、1団体がアウトプットである支援件数が伸びていなかった。進捗の遅れに対しては、より迅速な伴走支援を行うなど、進捗に遅延がみられる団体は注視しながら問題点を把握して具体的な解決策を助言するなど、適切な伴走支援を行う必要がある。</p>

VII. その他

自由記述
特になし

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	有	<p>◆実行団体のメディア掲載</p> <p>（セカンドハーベスト京都、フードバンク愛知）ローカル紙、（フードバンクびわ湖）ローカル放送、（イコロさっぽろ）ローカル紙、ローカル放送、（フードバンク北九州ライフアゲイン）市報、生協の雑誌等</p>
広報制作物等	無	
報告書等	無	

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	
3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	HPにて必要な規程類を開示しているが、一部の規程に関しては現在作成しており、理事会での承認待ちである。
5. コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。	いいえ	今年度コンプライアンス委員会について規定を整備したばかりであるため、開催はこれからである。